

第2章 ハタイ省における民家調査

山田 幸正 チャン ティ・クエ・ハー

1. 調査の概要

ハタイHàTây省は、ベトナム北部紅河デルタに位置し、首都ハノイの南西側に隣接する。古来より、人々は山岳地域から平野部に定着して、村を興したとされ、歴史的にみて10世紀頃より、ハタイ省周辺地域は、中国からの独立をめざした民族運動の政治的拠点となり、また文化・経済の中心としても栄えた地域の一つであった。現在も、歴史的な史跡や古い寺院が各地にみられるほか、伝統的な形態を

伝える木造民家も比較的多く遺されている。ハタイ省は面積2,147km²の省域を占め、2002年時点での人口は約2,237千人で、2つの市、12の県、323の村から構成されているとされる。省内には大きな河川は流れていないが、比較的ひらけた平野部を有する。年中の平均気温は23℃程度で、年間雨量は1,700～1,800mmと非常に多い。なお、当該民家調査は、省内の全域を対象として行なわれた。

ハタイ省における調査は2002年度に実施され、第一次調

表1 ハタイHàTây省における第一次調査の概要

市/県		Ha Dong	Hoai Duc	Quoc Oai	Chuong My	Thach That	Thuong Tin	My Duc	Thanh Oai	Ung Hoa	Phuc Tho	Ba Vi	Phu Xuyen	So n Tay	Dan Phuong	合計(%)
計		12	28	26	31	29	31	22	38	31	35	58	15	39	24	418(100)
屋根	切妻	10	28	25	30	28	31	22	37	30	35	57	14	39	24	410(97.8)
	入母屋	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2(0.47)
	茅葺	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0(0)
	他	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3(0.71)
	不明	0	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	4(0.95)
間口	5間+	2	3	3	6	9	4	0	1	1	11	7	0	2	1	50(11.93)
	5間	7	22	21	23	18	15	13	35	18	21	42	10	36	18	299(71.36)
	3間	0	3	1	2	1	9	3	2	3	2	1	4	0	1	32(7.63)
	4間	2	0	0	0	0	0	3	0	1	0	3	0	0	0	9(2.14)
	不明	0	0	1	0	1	3	3	0	7	1	5	1	1	4	27(6.44)
向き	南	2	2	8	10	3	10	3	14	7	6	0	3	9	1	78(15.88)
	東南	7	6	2	8	13	3	8	9	10	5	12	6	8	8	105(20.05)
	南西	1	6	3	3	5	3	6	8	4	10	13	3	2	4	71(16.94)
	東	0	10	1	5	3	5	0	2	6	3	2	1	5	0	43(10.26)
	北東	0	1	1	2	2	1	1	2	0	6	10	0	8	9	43(10.26)
	北	0	0	6	0	1	2	0	0	0	1	6	0	5	0	21(5.01)
	西	0	2	2	2	2	5	3	1	1	5	1	0	0	0	25(5.96)
	北西	0	1	2	1	0	1	0	1	2	3	7	0	1	1	20(4.77)
保存状態	不明	2	0	0	0	0	1	1	1	1	0	3	1	1	1	12(2.86)
	良好	3	10	8	15	10	3	0	18	3	19	24	7	16	12	148(35.32)
	中	7	18	17	15	18	27	18	17	25	14	22	6	18	11	233(55.6)
	悪	2	0	1	1	1	1	4	2	2	2	9	0	3	0	28(6.68)
	不明	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	3	2	2	1	10(2.38)
建築年代	最古例	約200年前	1670	約200年前	1805	1719	明命朝	1906	嘉隆朝	1858	1834	1758	1890	1790	嗣德朝	
	最新例	1958	1932	1945	1935	1958	1931	1945	1929	1942	1954	1945	1934	1945	1921	
	18c.	0	9	1	0	4	0	0	0	0	0	5	0	4	0	23(5.48)
	19c前半	1	0	3	7	2	1	0	8	0	9	12	0	11	8	62(14.83)
	19c後半	7	13	13	17	18	12	0	25	12	17	28	6	16	14	198(47.36)
	20c前半	1	4	6	7	4	14	22	5	18	8	8	7	4	2	110(26.25)
	20c後半	1	0	2	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	5(1.19)
	不明	0	0	0	0	0	4	0	0	1	0	5	2	4	0	16(3.18)
史料(件)	有	2	15	1	0	0	16	7	3	9	23	24	12	9	19	140(33.49)
	台帳	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	
	棟木梁銘	0	0	0	0	0	15	7	1	8	22	22	12	7	19	
架構形式	I	0	3	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	5(1.19)
	II	8	15	24	28	27	9	2	9	7	27	52	2	33	21	264(63)
	III(1)	1	3	0	3	0	16	18	12	21	1	1	9	2	1	88(21)
	III(2)	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1(0.23)
	III(3)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	2	1	7(1.67)
	III(4)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0(0)
	IV	0	2	1	0	0	2	0	1	1	0	1	0	0	0	8(1.9)
	V	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4(0.95)
小屋組	不明	2	4	1	0	0	2	2	16	2	4	1	4	2	0	41(9.54)
	A	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	3(0.71)
	B	5	11	4	29	0	15	11	25	19	1	17	4	13	4	158(37.7)
	C	3	10	18	1	26	11	1	12	6	30	23	5	22	17	185(44.15)
	他	0	3	0	0	1	2	3	0	1	1	0	1	0	0	12(2.86)
	不明	3	4	4	1	1	1	1	1	5	3	17	4	4	3	52(12.41)

II. 民家調査

査では418件の民家がその対象となった(表1)。

第一次調査から、まずわかることは、瓦葺切妻造の民家がそのほとんどを占めていることである(97%)。建物規模からみると、間口5間の民家が71%、さらに間口5間以上の民家が11%を占め、他地域に比して比較的大規模な実例が多くみられた。一方、調査対象となった民家のなかには間口3間の例が7%、間口4間の例が2%含まれている。民家の中心的家屋である主屋の向きをみると、南および東を中心に南、東、南東、南西、北東など様々で、なかでも南東に面する民家が20%と最も多かった。南と南西の方向はそれぞれ15%、東と北東の方向はそれぞれ10%程度である。他の方向は、いずれも5%以下である。

家屋の保存状態に関して、第一次調査を担当したベトナム側調査員の評価によると、中程度の保存状態と判定されたものが過半数を占め(55%)、良好な状態とされたものが35%であった。

主屋の建設年代を推定するための根拠となる史料が140例(33%)で確認されている。そのほとんどが、棟木あるいは小屋梁に刻印された銘文であった。最古とされた民家の建設年代は1670年と報告された(HT26)。18世紀中頃から19世紀前半に建設されたものが20%程度みられるが、調査事例の多くは19世紀後半に建てられたものであった(47%)。省内において特に、バヴィBaVi県とソンテイSơn Tây県で、比較的古い民家が多く遺されていることが注目される。

ベトナム側による第二次調査は40件(表2)、日本側による第三次調査は2回にわたって実施され、その合計は87件(92棟)であった。なお、日本側による第一回目の調査は、ベトナム側調査に部分的に同行する形で行なわれた。第二回目のものは日本側による単独調査で、そのため、87件のうち36件についてはベトナム側の第一次調査の中に含まれていないものとなった。

表2 ハティHà Tây 省における第二次調査の概要

調査 No.	住所		建築年代	主屋の平面規模 間口(m)×奥行(m)	主屋 向き	屋根 形状	中央の架構			主屋の 主な材料
	県	村					軸組	小屋組	細部	
14	HD	SonĐông	1928年(聞取り)	7(12.83) × 3 (6.28)	東	切妻	Ⅲ(1)	C	4	Xoan
15	HD	SonĐông	1664—1692(聞取り)	5(17.33) × 3 (7.43)	東	切妻	I	B1	1	Xoan, Tro, Lim
37	HD	VânCanh	不明	5(11.22) × 4 (6.35)	南東	切妻	Ⅱ	B2	2	Xoan
62	QO	ThịTrần	不明	5(12.51) × 4 (8.81)	南西	切妻	Ⅱ	B1	4	Xoan, Mit
64	QO	ThịTrần	1900年(聞取り)	5(13.57) × 4 (5.55)	北	切妻	Ⅱ	C	3	?
79	CM	TiênPhượng	1900年(聞取り)	5(11.22) × 5 (6.25)	北西	切妻	Ⅱ	?	3	Mit
82	CM	TiênPhượng	1900年(聞取り)	7(14.14) × 5 (5.83)	北東	切妻	Ⅱ	?	2	Xoan
115	TTh	HươngNgai	1900年(聞取り)	5(12.67) × 4 (6.99)	北東	切妻	Ⅱ	B2	?	Lim, Xoan
116	TTh	HươngNgai	不明	5(11.58) × 4 (6.18)	南西	切妻	Ⅲ(3)	合掌・束	1	Lim
140	TTi	DuyênThái	1848—1884(家譜)	5(12.70) × 4 (7.70)	東	切妻	Ⅱ	特殊	4	Xoan
127	TTi	HàHôi	130年前(梁銘)	7(15.08) × 4 (6.59)	南	切妻	Ⅱ	B2	2	Xoan
131	TTi	ChươngDương	1900年(聞取り)	5(12.70) × 3 (6.60)	南	切妻	Ⅲ(1)	C	4	Xoan
160	MD	PhùngXã	1936(移築年)	5(11.70) × 3 (7.47)	南西	切妻	Ⅲ(1)	B2	4	Sen
182	TO	KimThư	1916—1925(棟木銘)	5(11.80) × 4 (7.15)	南	切妻	Ⅱ	C	4	Xoan
203	TO	TamHung	1714(家譜)	5(13.05) × 3 (6.43)	西	切妻	Ⅳ	B4	2	Lim
211	TO	CựKhê	不明	5(14.60) × 6 (11.35)	南西	切妻	特殊	特殊	3	Xoan
214	TO	CựKhê	1907—1915(梁銘)	5(14.60) × 4 (7.20)	北西	切妻	Ⅱ	B2	3	Xoan
4	HD	HàCầu	1900年(聞取り)	5(11.98) × 4 (6.38)	南東	切妻	Ⅱ	B2	3	?
7	HD	MẫuLương	不明	5(11.22) × 4 (5.85)	南東	切妻	Ⅱ	B2	4	?
9	HD	VânMô	不明	5(14.22) × 4 (7.08)	南	切妻	Ⅱ	C	4	?
217	UH	QuangPhúCầu	不明	5(12.34) × 4 (7.65)	南	切妻	Ⅱ	B4	4	Xoan
218	UH	QuangPhúCầu	不明	6(13.30) × 3 (6.10)	北西	切妻	Ⅲ(1)	C	3	Trai, Lim
231	UH	HoaSơn	1925—1945(梁銘)	5(12.60) × 3 (5.92)	南東	切妻	Ⅲ(1)	特殊	3	Xoan, Sen
239	UH	CaoThanh	1870(聞取り)	6(13.30) × 3 (6.10)	南東	切妻	Ⅲ(3)	B3	3	Nghien, Xoan
283	BV	ĐôngThái	不明	7(15.72) × 4 (7.10)	南西	切妻	Ⅱ	B2	3	Xoan, Dinh, Lim, Mit
284	BV	ĐôngThái	不明	7(18.26) × 5 (6.76)	南東	切妻	Ⅱ	B2	1	Xoan, Dinh, Mit
285	BV	ĐôngThái	1805(聞取り)	7(16.28) × 5 (6.53)	北東	切妻	Ⅱ	B3	3	Xoan, Lim
308	BV	ChuMinh	1910(聞取り)	5(14.52) × 5 (6.21)	南	切妻	Ⅱ	B3	1	Xoan
309	BV	ChuMinh	不明	5(13.04) × 4 (5.62)	北	切妻	Ⅱ	B2	2	Xoan
310	BV	ChuMinh	150年前(聞取り)	6(14.12) × 5 (7.05)	北	切妻	Ⅱ	B3	1	Xoan
312	BV	ChuMinh	1920(聞取り)	5(12.03) × 4 (5.21)	東	切妻	Ⅱ	B3	2	Dinh, Lat, Mit, Xoan
317	BV	ĐôngQuan	1800(聞取り)	3(08.83) × 6 (7.48)	北	切妻	Ⅱ	B3	1	Xoan, Dinh
321	BV	ĐôngQuan	不明	7(18.71) × 5 (7.50)	北東	切妻	Ⅱ	C	1	Dinh, Lim
326	BV	TiênPhong	160年前(聞取り)	7(12.87) × 5 (7.41)	南	切妻	Ⅱ	B3	1	Xoan
327	BV	TiênPhong	200年前(聞取り)	7(19.99) × 5 (7.65)	北東	切妻	Ⅱ	C	2	Xoan, Lim
335	BV	TiênPhong	1900年(聞取り)	5(13.95) × 4 (5.81)	南東	切妻	Ⅱ	B3	1	?
?	BV	ĐôngQuan	200年前(聞取り)	5(13.12) × 5 (6.76)	南	切妻	Ⅱ	?	?	Xoan
359	ST	ĐườngLâm	150年前(聞取り)	5(13.74) × 4 (6.47)	南東	切妻	Ⅱ	C	1	Xoan
364	ST	ĐườngLâm	200年前(聞取り)	7(17.99) × 4 (7.05)	南	切妻	Ⅲ(1)	B2	1	Xoan, Dinh, Dui
384	ST	ĐườngLâm	不明	?	西	切妻	Ⅱ	C	1	Xoan, Lim, Mit

BV:H.BaVi, TO:H.Thanh Oai, TTh:H.Thach Thát, HD:H.Hoài Đức, ST:H.Sơn Tây, DP:H.Đan Phượng, PT:H.Phú Thọ, TTi:H.Thường Tín, CM:H.Chương Mỹ, UH:H.Ứng Hoà

2. ハティ省民家の実例

2-1 Khuat Khac Dao 氏宅 (HT01)

／所在地：Thạch Thất 県Dài Dống 村（Ⅰ型／Ⅱ型）

当家の屋敷地は、南北に長く、周囲を壁および塀で囲われている。その敷地の北寄り部分の大半を占める形で、間口5間の比較的大きな規模を有する2棟の家屋が併行して建てられている。前方の家屋（前屋）と後方の家屋（後屋）の間には、4mほどの舗装された中庭がある。前屋の西側前方、直角方向に竈などを設けた台所が別棟でたつ。敷地への出入り口は敷地の南東隅部にあり、前屋の前方には干し庭と植栽が広がり、また前屋および中庭の東側にも庭が設けられている。

後屋の小屋梁の下面に「同慶丁亥秋」という年号を有した銘文から、当該家屋の建設年代は1887年と考えられるが、現状において多くの部材に新しいと思われる材が使われており、近年において大規模な修理が行なわれたと推定される。一方、前屋の建設年に関わる史料は確認されていない。ただ、50歳となる当主からの聞き取りによると、当家はこれまで19代目続いたとされ、初代は1740年頃、王宮に勤める官僚であったと伝わる。

前屋と後屋はそれぞれ異なる基壇上に立ち、前屋は間口5間で14.29m、奥行4間で7.65m、切妻造屋根はその勾配が6.6/10である。建物の前面には間口いっぱい吹き放ちの柱廊（ヒエン）が備わる。前面の建具は柱間ごとに3組の棧唐戸風の開き戸で、それらは高さ約50cmの中敷居の上に納まっている。家屋の両側面と背面を煉瓦造の壁で囲んでいるが、背面の中央間のみ開放され、後屋と連絡している。前屋はほぼ左右対称に、中央間口3間の「主室」と左右間口1間ずつの「側室」の三つに木製板壁で間仕切られている。主室と側室とを区画する板壁の前方には狭い出入り口を設けられる。現在、主室はおもに応接用の空間として使われ、その左の側室は倉庫、右の側室は寝室となっている。

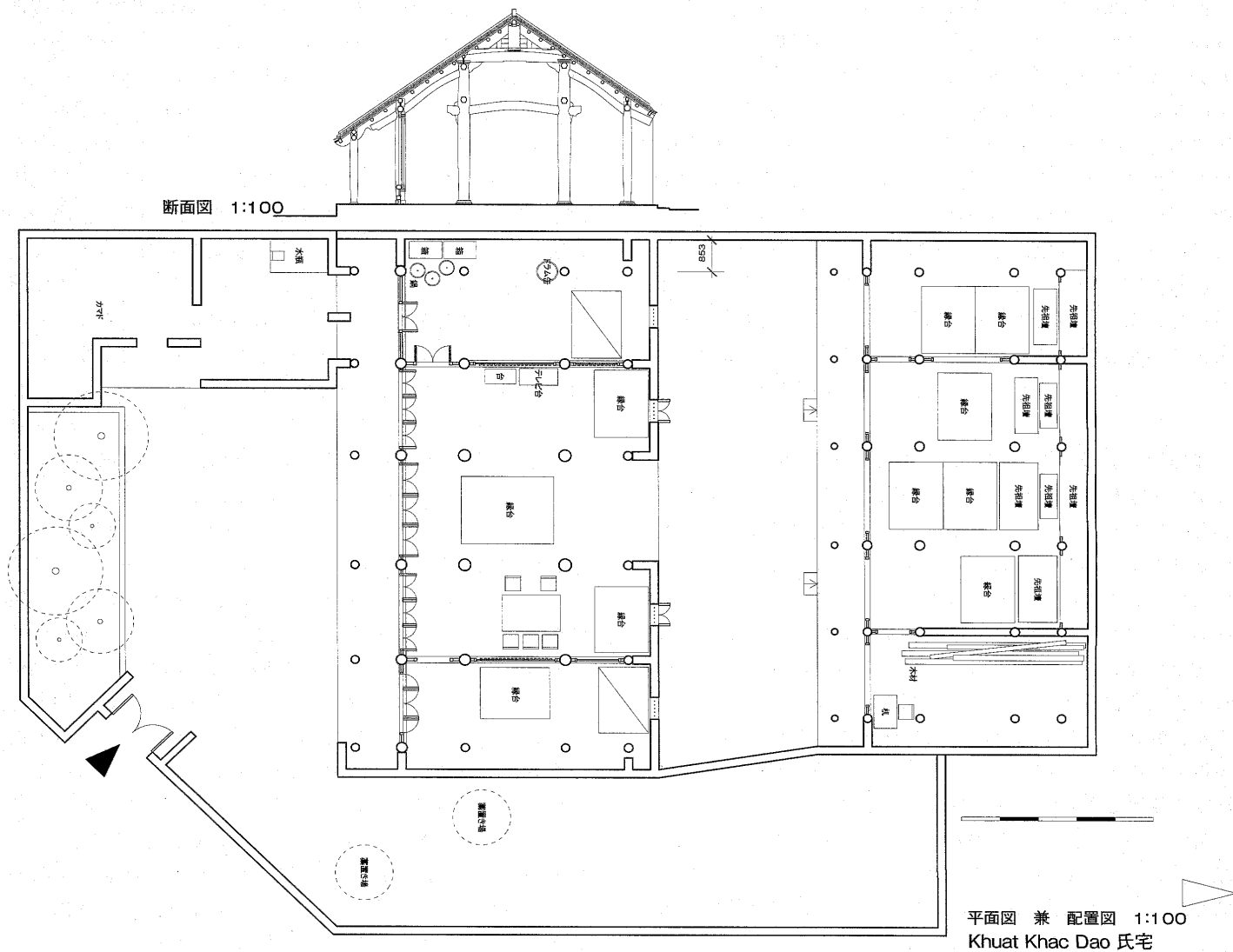
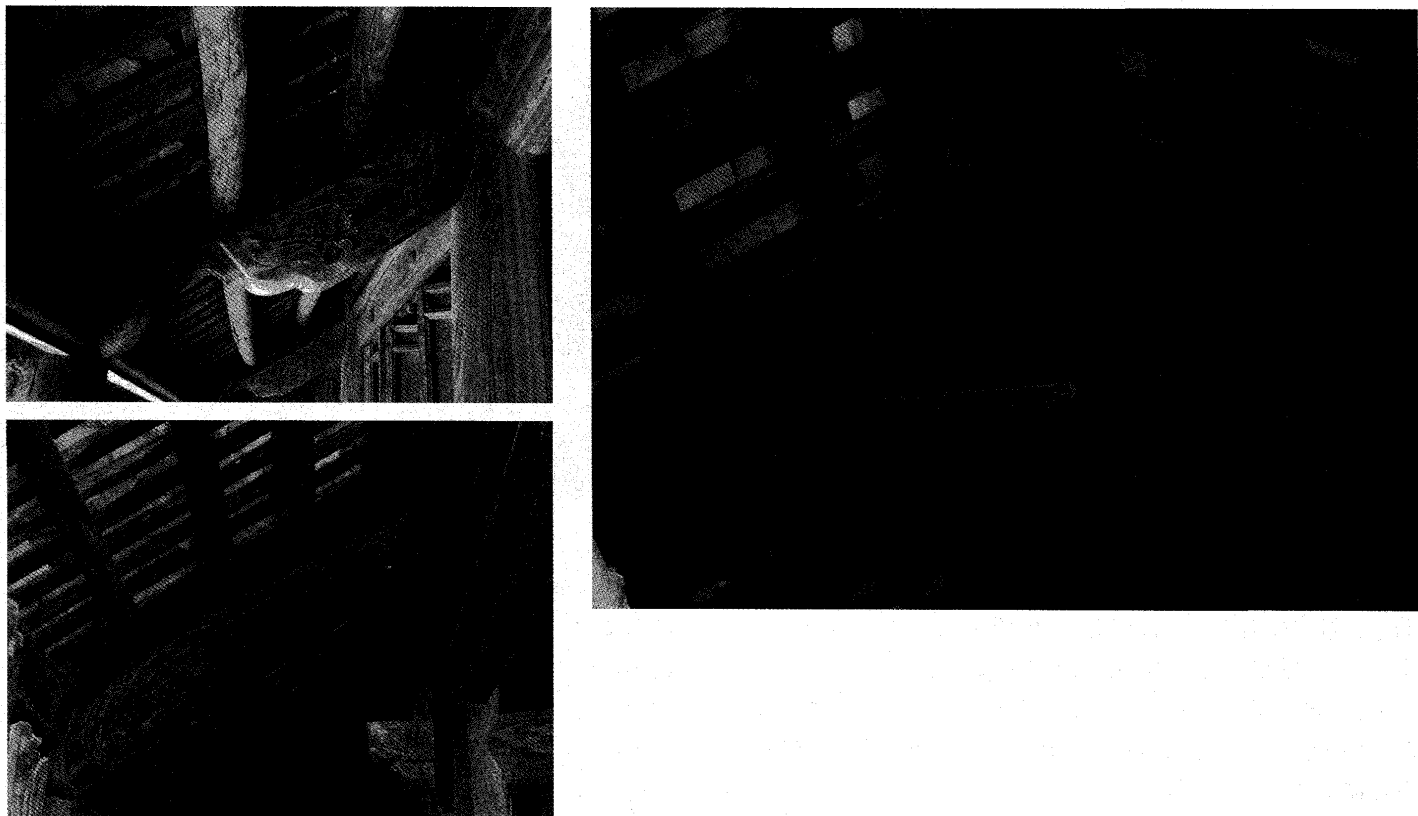
後屋は、間口5間で13.64m、奥行4間で6.57m、6.7/10の切妻造屋根で覆われている。建物正面には、間口全面にわたって吹き放ちのヒエンが備わり、その奥の建具は前述の前屋とほぼ同様なものであるが、用いられている部材からみて、かなり時代の下るものと推測される。後屋も前屋同様、左右対称形に3室に間仕切られている。現在、この建物は祠堂として用いられ、中央の3間の部分にそれぞれ先祖壇を設けている。左側の側室にも先祖壇を設けているが、聞き取りによると、おもに法事などの行事の際の準備用の部屋として用いている。また、右側の側室にはこの建物を修理した際に出た古材が保管されている。

前屋における中央間口の柱間は2,925mm、その左右の柱間は2,509mmである。一方、後屋における中央間口の柱間は2,650mm、その左右柱間は2,339mmで、前屋と比較すると、それぞれの柱間がやや狭くなっている。



前屋と後屋における中央間の架構についてみてみよう。それぞれ異なる形式の架構が使われている。すなわち、前屋の架構では中央に立つ2本の正柱（直径310mm）は、その頂部に方形の斗を介して、その上の小屋梁を受けている。柱の上方において飛貫が正柱2本を貫通し、鼻栓で留められている。それら正柱の前方および後方においてそれぞれ、側柱（直径275mm）との間は彎曲した斜梁が架け渡されている。また、前方の側柱とヒエン柱（直径210mm）との間は、側柱を越えてのびる斜梁の先端を繋いで、別の部材が挿入されている。この短い斜梁状の部材は、表面に施されている彫刻の様式からみて、正柱からの斜梁とは明らかに異なり、時代的に新しい。おそらく、現存のヒエン柱とその軒は後世に付け加えられたと想像される。なお、軒先の高さは1,670mmで、かなり低く抑えられている。前屋の小屋組をみると、正柱間にかかる小屋梁の中央に方形の斗を介して幅200mmほどの薄い板状の束が立ち、棟木まで達している。直線的な部材が授首組みのように左右に小屋梁上に載る。こうした形式の小屋組は、これまであまり見られていない。母屋は直径130～150mmの丸い部材で、約300mmの等間隔に配されている。それらの上に厚さ100mmほどの厚い板状の垂木がほぼ150mmの間隔で並べられ、その上に瓦が二重に葺かれている。

後屋の中央間における架構をみると、直径245mmの正柱と前後の直径240mmの側柱とは、側柱頂部の高さに架けられた水平の部材で連結されている。それらの正柱・側柱間には、彎曲した斜梁が架け渡され、さらに、前方側柱とヒエン柱（直径165mm）との間にはこれとは別の斜梁が軒先までのびている。後屋の小屋組をみると、正柱間を掛け渡された小屋梁の上には四角形の斗を介して、2本の束が立ち、それらはそれぞれに母屋を受けている。これら2本の束の上部は短い横木で結ばれている。また、他の母屋を受けるための彎曲した斜材がみられる。母屋はおおよそ100mm×60mmの長方形の部材で、ほぼ300mmの等間隔で配されている。ただし、それらの多くはかなり時代の下る新材に取り替わってしまったものと思われる。



2-2 Nguyen Phuc Tho 氏宅 (HT152)

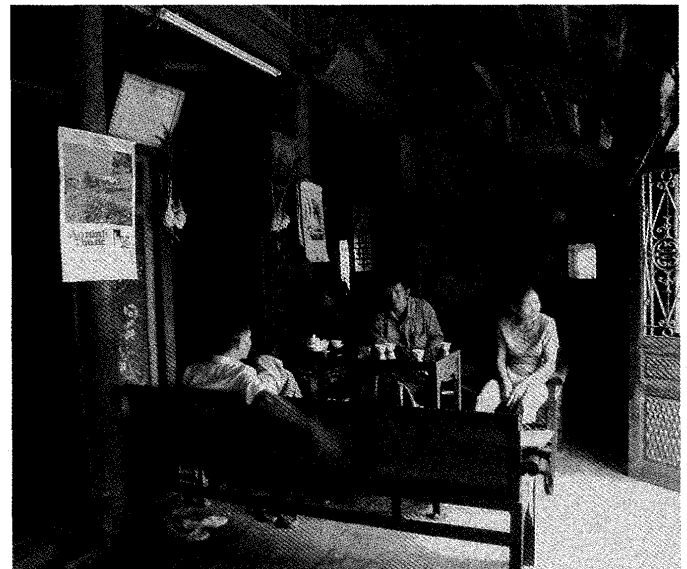
／所在地：Thường Tín 県Nhị Khê 村 (Ⅲ(3)型)

当家の屋敷地は東西方向に長く、その北辺の西よりに道路からのアクセスが設けられている。間口3間の主屋は敷地の南側ほぼ中央に北面して建てられている。屋敷出入口と主屋との間には舗装された干し庭が広がり、北側の道路沿いの塀内には、水盤などの水場となっている。敷地の西側は豊かに植栽された庭となっている。主屋の東側に小さな木工作業場が隣接し、敷地の東側には、付属屋、家畜小屋、カマバなどが設けられている。

当家主屋の建設年代については、棟木にみられる銘文により「保大戊〇年李冬月式拾日辰辰堅柱上梁大吉」と読み取ることができ、これを西暦に換算すれば、1938年となる。また、聞き取りによると、当家初代は印鑑を彫刻する職人で、都会で仕事をして資金を貯えて、現在の主屋を祠堂および接客用の家屋として建設したとされる。

主屋の規模は、間口3間で7,865mm、奥行4間半ほどで7,016mmと、間口に比して奥行きの深い家屋となっている。屋根は切妻造で、その勾配はおよそ6/10である。間口方向の柱間間隔をみると、中央柱間は2,197mm、その左右柱間は2,412mmで、両側の柱間をわずかながら広く取られている。当該主屋は奥行方向の大きく2つに仕切られている。主屋の後方の空間には、中央の柱間奥に先祖壇が安置され、その前に拝礼用の縁台が配されている。その左右の柱間は、当主の寝所となる縁台とベッドが配されている。一方、前方部分は両側にレンガ造の壁を備えた、いわゆるヒエンであるが、ここでは通例とは異なり、前面が開放されており、いわゆるヒエン柱列の全面にわたって木製建具が設けられている。しかし、このヒエンを閉ざす建具は中敷居を用いず、木製扉などの形式や状態も新しいものと考えられ、年代は確定させることはできなかったが、これらが後補であることは明らかである。一方、正柱列に配した建具は、床面から高さ280mmの中敷居を備え、その上部に伝統的な框扉が木製枠のなかに納められている。当家主屋は前述の通り、間口が3間であるのに対して、奥行は背面の側柱と壁との間の空間を含めて、奥行4間半の空間がとられている。主屋の内部空間は前後の二つに区分されている。とくに前方のヒエン空間は2間分の奥行を有し、その中央2列では柱が省略され、長い斜梁が架けられている。そこには現在、応接用の家具がおかれている。聞き取りによると、このような平面構成をNội Tu Ngoài Khách (直訳すると「内寺外客」という言葉で呼ばれている。先祖を祀る空間および主人の寝室・居間としての空間とは別に、十分な広さをもった接客用の空間が一つの部屋として建具などにより仕切られて設けられていることは極めて興味深い。

主屋の中央柱間を構成する架構をみると、中央に立つ二本の正柱はその上端部において小屋梁を受け、その下方で



は、材の成220mmの水平材が正柱2本を繋ぎ、さらに、後方の側柱の頂上部まで達している。また、後方正柱の上部からは、屋根勾配にそって海老状の斜梁が上記の水平部材の上に載せられ、さらに後方の側柱と背面のレンガ壁の間にも斜材が架けられている。一方、前方の広い接客空間を構成するヒエンにおいて、前方の正柱とヒエン柱のそれぞれの頂部は1本の長い斜梁によって連結され、さらに、別材の短い斜材がヒエン柱の先、軒先まで架けられている。小屋梁の上には、浅い斗を介して、2本の短い束が立つ。束の頂部は短い横材で連結され、その下面から彎曲した短い斜梁が配されている。斜梁の上には、長手で約80mm・短手で約50mmの母屋がおよそ150mmの間隔で配され、その上に幅約40mmの板状の垂木がほぼ50mmの等間隔で並べられている。それら垂木の上に二重の瓦が直接敷き詰められている。なお、架構部材に用いられているのはスワン材である。

